

平成31年度 事業報告書

平成31年4月 1日から

令和 2年3月31日まで

学校法人森岡学園

1. 法人の概要

名 称 学校法人 森岡学園（昭和43年5月8日法人設立）

代表者 理事長 市 田 守 男

住 所 大阪市住之江区南港中4丁目4番32号

電 話 06-6613-0800

FAX 06-6613-0801

設置する学校

住 所 大阪市住之江区南港中4丁目4番32号

名 称 住の江幼稚園

役 員

理 事 5名 監 事 2名

評議員 11名

理事会 2回開催 評議員会 2回開催

職 員 23名

2. 事業概要

（ 住の江幼稚園 ）

《教育理念》

たくましく生きる力を育む

《教育目標》

素直で明るく元気な子ども

健康で豊かな心を持つ子ども

進んで参加し仲良く遊ぶ子ども

《教育方針》

のびのび、いきいき、わくわく

《教育内容》

幼児期に、たくましく生きる力を育みます。

人生とは選択の連続であり、様々な場面で自らの選択が問われていきます。教育理念の『たくましく生きる力』とは、『自ら選択できるたくましさ』とも言えます。お子さまのたくましく生きる力を育みます。

・3大活動

1. つみき教育、2. 芸術活動、3. だるまこ遊び

・12の特色（あそびの達人を生み出す幼稚園の12の特色）

1. 愛情あふれる先生たちの保育力、2. たっぷり遊べる日常活動、3. 子どもの育ちを支える保育内容、4. 専門講師による正課授業、5. 作りたてで美味しい手作り自園給食、6. 社会への関心の目を育てる年間行事、7. 四季を体感できる園外保育、8. 充実した遊具と設備環境、9. 働くママを応援するホームクラス、10. 利用しやすい多彩なバスコース、11. 降園後も楽しい課外授業、12. 地域連携で進める保育支援

《園児数》

	3歳児		4歳児		5歳児		クラス数計	園児数計
	クラス数	園児数	クラス数	園児数	クラス数	園児数		
定員	3	75	3	105	3	105	9	285
31年度	3	67	3	83	3	93	9	243

《諸費用》

項目	1号認定		2号認定	
入園準備金	70,000円		70,000円	
検定料	10,000円		10,000円	
施設協力費	30,000円		30,000円	
保育料（月額）	大阪市が定める金額		大阪市が定める金額	
教育充実費	9,000円		9,000円	
給食費（月額）	3,000円		主食3,000円	
			副食4,500円	
バス維持費（月額）	4,000円		4,000円	
制服（冬）	男児	23,470円	男児	23,470円
	女児	23,570円	女児	23,570円
（夏）	男児	12,780円	男児	12,780円
	女児	12,990円	女児	12,990円
体操服（冬）	6,300円		6,300円	
（夏）	3,300円		3,300円	
通園カバン	3,600円		3,600円	

《開園日時》

開園日 月・火・水・木・金曜日

開園時間 午前7時30分～午後7時30分

《預り保育内容及び費用》

月～金曜日 午後2時～午後6時

夏冬春休み中の預かり保育は、午前8時30分～午後6時

月払い7,000円

《行事实施状況》

七夕まつり、運動会、造形あそび、絵画展、野点、バザー、生活発表会、音楽会、町会のまつり、小学校のイベントなどを通じて、地域との交流を深めている。

《施設関係》

園地面積 2,000㎡ 運動場面積 840㎡

《設備関係》

大型遊具

(すみのえひよこ保育園)

《園児数》

保育所 定員39人	0歳児	1歳児	2歳児	園児数計
	園児数	園児数	園児数	
30年度	3	15	18	36
31年度	4	14	17	35

《職員構成》

園長	1名
副園長	1名
主任保育士	1名
保育士	9名
栄養士	2名
調理員	2名
パート	6名

《事業報告》

令和元年度の事業は、保護者の協力を得て役職員の真摯な努力により、着実に運営することができた。

なお、令和元年10月より幼児教育の無償化が実施され、新制度移行への流れが緩やかになり、令和2年度は大阪では192園が私学助成で事業を継続している。

また、令和2年2月29日、安倍首相は、新型コロナウイルス感染抑制のため、3月2日から全国すべての小・中・高・特別支援校の臨時休業を発表した。更に、4月7日、緊急事態宣言を7都府県に発出し、4月17日、緊急事態宣言を全国に拡大、5月6日まで感染抑制のため、学校の臨時休業が要請された。医療機関が崩壊しないよう、感染数の推移から、5月4日、休業期限が5月末まで延長された。一方、経済・社会活動の再開について、知事の判断でそれぞれ進められることになった。

そして、教育現場の再開の方策と合わせて、9月からの新学期が同時に検討されることになり、この先、予断を許さない状況が続くが、当園としては、保育再開後、感染防止に努めながら、如何に園児がスムーズに過ごせるか受け入れ態勢の整備を進めると共に、保護者と連携しながら準備を怠らないようにする。

一方、新型コロナウイルスの蔓延のため、経済状況は、大恐慌時以上に悪化し、3密・自粛の影響で、飲食業・鉄道業・航空業・旅行業等のサービス業の休業実施により、失業が大幅に増加していることや、今まで、教員免許取得者が流れていた業界においても採用抑制となることから、昨年来の人手不足感が大幅に緩和され、教職員採用においては、やや改善することが期待できる。

以上のことを踏まえ、当園としては、幼児教育の無償化への理解を深め、事業継続を踏むため、地域の乳幼児数の推移及び教職員採用計画を改めて練り直し、5年後の

事業予想（中期事業計画）を作成し、リスク管理体制を整備する。合わせて、監督官庁の調査に、しっかりと対応出来るよう、事務組織を見直し、事務管理体制の確立に努める。

自己評価については、確実に実施し公表している。また、その自己評価の内容を、学校関係者評価委員会で検討し内容を別紙のとおりまとめた。内容を精査・検討し新年度の評価項目を策定することとした。

財務状況については、事業活動収支計算書での教育活動収入計が382,447千円（378,030千円）、教育活動支出計が383,132千円（前年度361,939千円）となり、教育活動収支差額△685千円（16,090千円）、経常収支差額比率0.24%（前年度4.25%）となった。

また、人件費比率（人件費／教育活動収入計＋教育活動外収入計）は、64.05%（前年度58.15%）となった。

資金繰りについては、翌年度繰越支払資金は、当年度の保持すべき資金（第4号基本金）の額を相当上回る額の支払資金を保持できているので問題ない。

3. 財務状況

別紙参照

4. 財務状況

学校法人 森岡学園

資金収支計算書

(単位:円)

科目	令和元年度
学生生徒等納付金収入	30,409,300
手数料収入	9,340,000
寄付金収入	0
補助金収入	292,514,618
資産売却収入	0
付随事業・収益事業収入	37,369,410
受取利息・配当金収入	1,668,908
雑収入	12,813,984
借入金等収入	0
前受金収入	2,280,000
その他の収入	64,760,416
資金収入調整勘定	△ 10,013,054
前年度繰越支払資金	67,069,507
収入の部合計	508,213,089
人件費支出	246,023,460
教育研究経費支出	41,187,793
管理経費支出	76,937,216
借入金等利息支出	49,447
借入金等返済支出	0
施設関係支出	4,212,000
設備関係支出	15,669,899
資産運用支出	45,986,705
その他の支出	63,034,862
資金支出調整勘定	△ 20,632,566
次年度繰越支払資金	35,744,273
支出の部合計	508,213,089

事業活動収支計算書

(単位:円)

科目	令和元年度
学生生徒等納付金	30,409,300
手数料	9,340,000
寄付金	0
経常費等補助金	292,514,618
付随事業収入	37,369,410
雑収入	12,813,984
教育活動収入計	382,447,312
人件費	246,023,460
教育研究経費	50,469,403
管理経費	86,639,675
徴収不能額等	0
教育活動支出計	383,132,538
教育活動収支差額	△ 685,226
受取利息・配当金	1,668,908
その他の教育活動外収入	0
教育外活動収入計	1,668,908
借入金等利息	49,447
その他の教育活動外支出	0
教育外活動支出計	49,447
教育活動外収支差額	1,619,461
経常収支差額	934,235
資産売却差額	0
その他の特別収入	0
特別収入計	0
資産処分差額	868,094
その他の特別支出	0
特別支出計	868,094
特別収支差額	△ 868,094
基本金組入前当年度収支差額	66,141
基本金組入額合計	△ 7,285,286
当年度収支差額	△ 7,219,145
前年度繰越収支差額	125,117,190
基本金取崩	2,000
翌年度繰越収支差額	117,900,045

(参考)

事業活動収入計	384,116,220
事業活動支出計	384,050,079

貸借対照表

(単位:円)

資産の部	
科目	令和元年度
固定資産	670,039,999
流動資産	45,956,548
資産の部合計	715,996,547
負債の部	
科目	令和元年度
固定負債	16,140,230
流動負債	30,789,443
負債の部合計	46,929,673
純資産の部	
科目	令和元年度
基本金	551,166,829
繰越収支差額	117,900,045
純資産の部合計	669,066,874
負債及び純資産の部合計	715,996,547

財産目録

(単位:円)

1. 資産総額	715,996,547
I 固定資産	670,039,999
II 流動資産	45,956,548
2. 負債総額	46,929,673
I 固定負債	16,140,230
II 流動負債	30,789,443
3. 正味財産	669,066,874

監 査 報 告 書

令和 2 年 5 月 30 日

学校法人 森岡学園
理事会・評議員会 御中

学校法人 森岡学園
監 事 谷口登一
監 事 西田昌功

私たちは、学校法人森岡学園の監事として、私立学校法第 37 条第 3 項及び寄附行為第 16 条に基づいて同学園の令和元年度（平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日まで）における業務及び財産の状況について、理事会その他重要会議に出席するほか、理事長から学校運営の報告を聴取し、重要書類を閲覧し、会計監査人から報告説明を受け、事業報告書及び計算書類等を調査いたしました。

監査の結果、私たちは、同学園の業務及び財産の状況に関して不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実は認められませんでした。

また、財務に関する計算書類は学校法人会計基準に準拠しており、学校法人森岡学園の令和 2 年 3 月 31 日現在の財務状態及び同日をもって終了する会計年度の経営状況を適正に表示しているものと認めます。

（注）監事 谷口登一及び監事 西田昌功とも私立学校法第 38 条第 5 項に定める外部監事であります。

学校法人 森岡学園 住の江幼稚園 学校関係者評価

住の江幼稚園の学校関係者評価は、在園児の保護者からのアンケート、また保護者会での意見交換会での意見などの「声」を集めたうえで、下記評価委員の会議で保護者会の代表(会長)の総括を住の江幼稚園の自己評価、学校評価に表示します。

評価担当者 住の江幼稚園 平成31年度 保護者会会長

評価会議 毎月第3水曜日午後2時30分より
平成31年4月より令和2年3月
(保護者会定例会議前に開催)

評価について 結果は年度末に表示します

学校法人 森岡学園 住の江幼稚園

学校関係者評価委員名簿

住の江幼稚園保護者会 会長

住の江幼稚園保護者会 副会長

住の江幼稚園保護者会 副会長

住の江幼稚園保護者会 監事

以上4名

自己評価結果公表シート

作成 住の江幼稚園

1. 本園の教育目標

教育理念「たくましく生きる力を育む」

教育目標「素直で明るく元気な子ども。
健康で豊かな心をもつ子ども。
すすんで参加し仲よく遊ぶ子ども。」

教育方針「のびのび、いきいき、わくわく。」

幼児の主体的な活動としてのあそびを十分に確保し、あそびを通して、たくましく生きる力を育むことを目指している。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

幼稚園教育要領が改訂されたことを踏まえ、今後も従来どおり園内研修を実施し、幼稚園教育課程の内容を確認し教職員の研鑽を深める。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
チーム保育などにおける教諭間の協力的な指導の状況	フリー、職員室チーム(教務等)と担任との連携状況は良好である。今後も職員会議等を通してコミュニケーションを図っていく。
幼稚園の状況を踏まえて、中・長期的なビジョンと計画を策定する。	新幼稚園教育要領にも示されているように、幼稚園に求められる社会的なニーズも変化してきている。こうした背景を踏まえて、本園がこれから長期的にどのような社会ニーズを答える必要があるか、具体的に検討を始めている。

職員研修について	園外研修にも積極的に参加している。園内研修については、重点計画に記載のとおりである。今後も教育の質の向上のために充実した研修を実施する。
保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応をはかる。	行事等についてアンケートを実施。出された意見に対して、必要なものについては園の考え方を示し、改善すべきものは改善するように取り組みつつある。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

取り組むべき課題について、全教職員が共通に理解し、それぞれ自己評価し、取組状況を話し合うことを通して、本園としての方針を明確にすることができ、それを実践する礎とすることができた。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
安全管理	不審者情報が市教育委員会や警察から、随時提供されるようになってきたが、それに対する園での対応が充分ではないので、施設面での対応と、教員の意識づけ、並びに危機管理マニュアルの作成を行いたい。
預かり保育	保護者の実情や要望による預かり保育の実施状況を把握し、分析して今後の預かり保育に反映させる。
園に対する保護者の満足度の把握	建学の精神に則った、私学の独自性に充分配慮しつつ、子育て中の保護者が期待する幼稚園像を把握し、現代社会において求められる幼稚園の姿を確認することで、本園のビジョンを策定する基礎としたい。

6. 学校関係者の評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められる。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。